

課題	地域課題	令和2年度の会議で出た対策・アイデア	令和2年度の方針	地域資源等の関連情報	意見	次回までの取り組み
1	歩いて行ける通いの場、運動教室が少ない	健康づくりリーダーなど地域の人材や理学療法士等社会資源調査、活用を検討。より専門的な通いの場となる。	理学療法士等の派遣などを調査し、協議会にて検討する。	<p>① 通いの場</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民主体の活動の場 (高齢者サロン・認知症予防ゲーム・椅子に座ってできる体操・健康麻雀・回想法など)自治会や高齢福祉課等から補助金を受け行っているところが多い。多くは、月1回程度開催。月2回、月4回開催しているところもある。 ・住民主体の体操クラブ 健康づくりリーダーが講師となって体操・運動指導を行う。会費制で、講師料を支払う。 公共施設で行うクラブは、会場の予約と会場使用料の支援を高齢福祉課がしている。 ・認知症予防(コグニサイズ(国立長寿医療研究センターが開発したもの))を取り組むクラブ 高齢福祉課が実施したコグニサイズ体験講座の受講者が中心となり取り組む。 ・ラジオ体操 市内各所で、市民が主体となりラジオ体操を実施している。 <p>② 北名古屋市老人クラブ連合会のクラブ活動 37団体(体操・詩吟・書道・盆栽・華道・大正琴・カローリング・グランドゴルフなど)が活動(①と重複クラブあり)</p> <p>③ 【地域がいきいき 集まろう!通いの場】特設サイト 厚生労働省のホームページにて、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止を図りつつ、居宅においても健康を維持するため、そして安心して通いの場の活動を再開するために必要な情報を発信している。</p> <p>④ 【オンライン通いの場】アプリケーション 国立長寿医療研究センターから「オンライン通いの場」アプリがリリースされている。 コロナ禍でもオンラインで自己管理しながら、運動や健康づくりに取り組めるアプリです。</p> <p>⑤ 健康づくりリーダーとは あいち健康プラザが健康づくりリーダーバンク登録養成研修会を毎年実施。市内で、健康づくりや介護予防のボランティアを実施。</p> <p>⑥ 北名古屋リハビリテーション連絡会について 市内で勤務するリハビリテーション専門職(理学療法士・作業療法士)の連絡会。自立支援型地域ケア会議に参加依頼をしている。</p> <p>① 令和3年度高齢者ふれあいサロン一覧表 項目ごとに情報収集し、検索しやすいように作成予定。</p> <p>② 平成31年度地域資源調査から 喫茶店に関する情報提供。</p>	<p>・通いの場の人間関係、トラブルの課題あり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サロンの内容が具体的にわかるとよい。 ・内容がバラエティーがあると行くきっかけになる。 ・喫茶店でサロンをやっている市あり。モーニングに行く人が多い。 ・市内接骨院を巻き込む。 ・通いの場の整備はされている。量を増やすだけでなくマッチングが必要。 ・専門職への周知が必要。専門職が地域資源を知らない。 ・理学療法士は、病態を理解しているため、内容について専門的な助言ができる。 ・スマホを持つ人が多い。スマホ利用の情報発信。市のラインを利用。 ・(医療機関の)外来にラインの案内を張る。 ・男性は、サロンにはいかないという視点が必要。 ・喫茶店の有効活用(理学療法士を呼んで体操をする。駐車場で野菜を売る) ・レインボーネットの検索方法について見やすいものにしていく。 ・専門職も情報を発信できるとよい。 ・通いの場に行きたくない高齢者もいる。子供(介護者)に向けての情報発信も大切。 ・専門職が、介護保険のサービスの中で通いの場に、利用者と出向くなど関わるとよい。 ・広報の表紙に、新しい形での集まりとして公園で将棋をしたり、河川敷で麻雀をする市民の写真を掲示するのはどうか。 ・専門職が、通いの場に出前講座に行く。目標回数を掲げる。医療や介護の話題は興味を持ってもらえるので、新たな参加者を増やす手立てとなる。 <p>・理学療法士の団体として協力していこうということになっている。共通教室等の講師派遣は前向きに考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナが終息した後連絡しやすいツールを作してほしい。 ・腰痛体操など指導する。 ・新しくサロンを作るのではなく、今あるところへ支援する。広報が大切。 ・サービスガイドの作成に済衆館病院のような大きなスポンサーが見つかることは無理か。住民全体にお知らせする手段にはならないか。 ・情報提供は大切である。 ・SCとして直接かかわっているサロンはないが、地域で何をやりたいのか、どのような思いでやりたいのかが大事。 ・PTの支援が必要かどうかの情報をどう得るか。SCが察知し投げかけてもらえるといい。 ・市は補助金を出す。SCは住民との密接な関係であるという強みがある。必ずしもサロンに行かなくても今あるサロンをどうしていくか。初めの段階としての全体像の共有を。 <p>・喫茶店の状況調査を見て、多くの喫茶店は難しいと思った。経営者にもよるが、スポーツジムなどでは行えないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まずは発信してみる。実績を作っていくため、14時から15時ぐらいの時間で喫茶店の空いているスペースでおれんじカフェをやってもらうなど、選択肢を増やしてはどうか。 	<p>・情報発信の検討(レインボーネット・ライン・広報等の活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通いの場(サロン)の情報発信 検索機能(テーマ別・ジャンル別)の検討 特性やアピールポイントの情報発信 サロンへアンケートを実施を検討 活動内容や写真の掲載、インタビュー等の情報発信の検討 ・喫茶店へアンケートの検討、意向を調査する。 ・直接かかわったこと(専門職がサロンへ、利用者と一緒に出向くなど)のある人からの事例の提供を検討してほしい。 <p>・SCと市の担当で検討し、サロンの在り方、これまでの経緯や今後の展望を挙げてほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サロンの状況を調べるにあたり、平常時の定員の記入をし、SCと協力して実施を。 <p>・おれんじスペースの一覧を提出してもらい、内容を共有し何かできることはないか考える。</p>